笹原中学校第１学年　学年通信　第１３号　　平成３０年１０月１２日（金）発行



すてっぷ　あっぷ



体育大会を振り返って

体育大会終了後に行事を振り返り、書いた作文をご紹介します。

「人の言葉の重み」

私は個人種目の８００mに出た。正直、自分より速い人がほとんどで不安だった。そんな時、同じ８００mにでるＡさんが「がんばろな！愛菜ちゃんならぜったいできるよ」と言ってくれて泣きそうになった。うれしかった。Ａさんのおかげでがんばろうって思えた。その日から、友達と公園で走った。あの言葉を思い出しながら、期待に応えたいと思いながら…。

けれど、自分の体は言うことを聞いてくれなかった。「ねんざ」この言葉を何度聞いたか。聞くたびに胸が苦しくなる。それでも私は、走りたい。どんなに足が痛くても走りきる。これまで努力してきたことを無駄にはしたくない。Ａさんの言葉を思い出しながら、かたく決心した。

これまで努力してきたことを発揮できる場、体育大会…。８００m走を走る番がきた。もう自分の心の中には迷いなどなかった。最後まで走りきろう。「パン」というピストルの音とともに走り出した。「いける、いける。自分の限界を超えろ！」そう自分に言い聞かせながら走った。１周目、２周目…。あれ？何か痛い…足だ。足が痛い。力が入らない…２周目から足をひきずるようになった。そんなのに負けちゃだめだ。わかっている、わかっているけれど…力が入らないの…。泣きそうになりながら走りきった。結果は…５位。悔しかった。本当に悔しくて、でもそこには後悔はなかった。期待には応えられなかったし、足もすごく痛かった。だけど、努力してきた結果だ。やりがいを感じた。悔しかったけれど、応援の声が聞こえ、最後まで走る抜けることができてうれしかった。

この経験をいかして、同じ気持ちで他の行事も全力でやり悔いのないようにしていきたいです。それと同時に、人の言葉の重みを感じた。私はあの言葉のおかげでこれたので、私もＡさんのようになりたいです。

（１組　女子）

「体育大会」

この体育大会では、ダンスやリレーでしっかり決められるよう皆と合わせることを意識しました。３年生の組体操は全員が息を合わせ、上の人を落とさないという強い気持ちが伝わりました。２年生は、昔のかっこいいおどりを僕らに伝えていました。１年生は、リズムに合わせてみんなの息がそろい、キレキレで楽しく踊っていました。

ムカデ競走では、１組はあまりうまくいかなくて、１位にはなれず悔しかったけど ２ 位になれてうれしかったです。１位になった２組は、みんなが息を合わせて速く走れていたから勝てたと思います。２年生のムカデ競走は、全クラス速かったです。

個人種目では、どんな順位の人も最後まで一生懸命に走っているのを見て、かっこいいなと思いました。リレーではバトンパスがしっかりできていました。同じチームの人を応援できていたのもよかったです。

（１組　男子）

「黄色のハチマキ」

私は、１００ｍの個人で絶対に１位をとる、といつもプラス思考でいました。けれど、一人で１位をとるのではありません。クラスで一緒に予選に出場する二人と一緒にとりたいと考えていました。結果的に、勝負なので１位は一人になるかもしれません。私は、決勝までは三人であがって、だれが勝ってもうらまない、と決めていました。

そして、本番。決勝に行けたのは私ともう一人。行けなかった一人は「ごめん」とずっと言っていました。けれど、負けることも大切だと思います。負けて、初めて自分の実力がわかるからです。勝ったら、上へ上へと進みます。

一緒に決勝へ行った子とは、ワンツーでいこ！と言っていました。そして、本当にワンツーでゴールできました。一緒に決勝を走った子の嬉しそうな顔が一番心に残っています。

ムカデでは、練習では負けてしまいました。本番ではこけてしまったのに皆で頑張って優勝することができました。

私がいいなと思うのは、クラスカラーで分かれているハチマキです。何組かわかりやすいようにつけているけれど、私はハチマキでみんなの心がつながっている気がします。もしかしたら、個人種目だったけれど、ハチマキのおかげで勝てたっていうのもある気がします。一生思い出に残る体育大会でした。

（２組　女子）

「体育大会」

僕が一番印象に残ったことはムカデ競走です。理由は二つあります。一つ目は、優勝できたことです。練習の時から優勝しようと言ってきて、本番で練習の成果を発揮できたからです。二つ目は皆で楽しく、けがなくできたことです。練習の時には、何回かこけたり、足が合わなかったりして、言い争っていた時もありました。けれど、本番では一回もこけずに最後は皆で笑っていたのでよかったなと思いました。

ダンスもしました。僕は前から２番目でした。一番前に行きたかったなという気持ちと、行きたくないという気持ちと両方を持っていました。自分が一番前に立つことで皆から信頼され、皆を引っ張っていきたかったです。もし、前に立ったらさらに楽しく踊ることができたと思いました。

逆に行きたくないというのは、恥ずかしいからです。一番目立つところで、そんなに目立つのが好きではないからです。もし、自分が間違えたら後ろの人全員に迷惑をかけるという不安もありました。たとえば、立ち位置を間違えたりすると、自分のせいで演技をこわしてしまうというプレッシャーもあります。その中で、学年の先頭で踊った８人はすごいなと思いました。

（２組　男子）

「ムカデ競走での後悔」

「ピーッピッピ、せーの」皆で声を合わせて心が一つになったと思えたのは、ムカデ競走です。初めは難しそうだし、こけるのも嫌だから、なんでこんなのしないといけないのだろうと思っていました。初めてグランドで練習した時は足踏みからで、他のクラスはもう走って向こうのコーンまで行けていたので無理だろうなあと思っていました。

でも、徐々に皆の息が合いついに一度もこけずに U ターンし帰ってこれました。そのときはとても嬉しくて、嫌だという気持ちから勝ちたいという気持ちになっていました。その日から、ムカデ練習が楽しみになり練習が始まると大きな声を出すことを意識するようになりました。するとどんどんスピードも上げられるようになり、プレではだんとつ１位をとることができて、とても嬉しかったです。

もう一つ嬉しかったのはムカデを通して、ある友達と仲良くなれたことです。その友達は「絶対に勝って連体に出よな！」と言ってくれ、二人で連体に出るという約束をしました。その友達はムカデの時に前に並んでいるので、二人で声出しも頑張りました。

そして、いよいよ本番。先生の合図とともに笛が鳴り始め、「ピーッピッピ、せーの」というかけ声にあわせ前に進み始めました。しかし、足がもつれたりして他のクラスに追い抜かされ、ついにはこけてしまいました。そのとき、もう１位は無理だと思っていました。それでも、あきらめずに男子にたすきを渡しましたが、男子もこけてしまい結果は３位でした…。とても悔しくて友達と泣きました。でも、皆で協力し始めて３組がひとつになった気がしていい経験になったと思いました。来年はいい成績を残せるよう頑張りたいです。

（３組　女子）

「白熱の体育大会」

「中学初めての体育大会。やるぞ」
と、意気込んでいたら…。雨が降ってきた。残念ながら１日延期となった。でも、いい天気で本番を迎えることができた。僕たちが座っている後ろには、僕が考えた学級旗がかざられた。みんなで協力して作り上げた旗がかざられてうれしかったです。

最初の競技は、クラスのみんなで協力するムカデ競走です。練習では、２位のクラスにかなり差をつけて勝つことができました。しかし、本番では緊張のせいかこけてしまい３位でした。本番でベストをつくせなかったのが残念でした。本番で勝つことの難しさを知りました。

次は演技。リズム体操「１UP」を踊りました。演技の練習は、台風などの自然災害で回数が減ったけれど、本番までに仕上げることができました。そして、本番では歌は元気よく歌い、ダンスは静と動のけじめをつけおどることができました。練習の成果が発揮できてよかったです。

最後に男子リレー決勝です。僕は第三走者です。途中ですべってこけそうになったけれど、最後まで走りきることができました。結果は３位だったけれど、バトンパスを成功させることができてよかったです。

総合順位も４４点で４位だったけれど、クラスの団結力が深まるいい機会だったなと思います。２年生の体育大会で総合優勝できるようにみんなと協力していきたいです。

（３組　男子）

「練習と本番」

僕は演技練習の１日目はちょっと覚えました。しかし、その後の３日は休んでしまいました。体調を崩してしまったからです。元気になり、学校へ来たときの練習はほぼわからなかったです。皆の動きを見たり、友達に教えてもらったりして演技をしました。その日から、練習に「全力」という目標を立てました。頑張っていたけれど、いつも顔が笑っていませんでした。笑顔を作れないのです。理由は演技に夢中になってしまったからです。本番では少し笑顔ができました。

むかで練習は、初めて練習した日、スタートで前に出た瞬間に足がとまり、自分のせいで前の子と自分がこけてしまいました。前の子は大丈夫と言っていました。そのミスから、かけ声を出しころばないようにしようと強く決心しました。けれど、２回目の練習の時にムカデのひもが短すぎて文句を言ってしまいました。先生に「そんなに言うなら自分で直しなさい」と言われました。そして、放課後僕はひものことを忘れ、部活に集中してしまいました。思い出した時には、バスケ部の２人が直してくれていました。２人には感謝の気持ちでいっぱいです。やってみると、皆が足をそろえ、速くなっていました。僕だけでなく皆や先生もおどろきました。あんなに走れなかったのに。２人のおかげです。本番は、女子が早く来て、男子になるとき、みんなが焦り最下位でした。でも、皆よくがんばっていたと思います。

スウェーデンリレーに僕は出ました。僕はどうしても同じ部活の人に負けたくありませんでした。僕より速いからです。リレーは２位でした。２位になれたのはバトンをつないでくれた人のおかげだと思います。

（４組　男子）

「１ＵＰ目指した体育大会」

暑い夏。体育大会の練習が始まった。中学生になってから初めての体育大会だ。まずは覚えるのに必死だった。

一つ目はダンス。ダンスの振り付けには、今年大流行した「ひょっこりはん」と「ＵＳＡダンス」が取り入れられていた。毎日、毎日練習しどんどん覚えていった。先生が「上手い人を前にします」と言った。私は、上手くはないが「前に行きたい」と思うようになっていた。先生の目にとまるような輝きの演技をしようと心に決め、毎日頑張った。そして、クラス順でのテスト。私は、「この日がチャンスだ」と小さくつぶやいた。大きな声で歌い、大きな動きや踊りながら歌詞を口ずさむなど、自分で工夫をした。その時には、恥ずかしがり屋の自分は消えていた。私は、その日にやっと前に行かせてもらえた。嬉しかった。元気で明るく１ＵＰを目標に、練習を積み重ね本番も一番いい演技ができた。

二つ目はムカデ競走。一番危ない競技だった。チームワークがないと絶対に勝てないと思っていた。放課後練習が始まった。思っていたよりも難しくてびっくりした。転んでいたかったけれど、頑張った。本番は、転ばずにいけたけれど、残念な結果になってしまった。でも、仲間との絆が深まりよいムカデ競走になった。

競走競技では決勝まで行けて、自分のベストをつくせた。皆で力を合わせて１ＵＰした最高の体育大会になった。

（４組　女子）